

Title	編集後記 奥付
Sub Title	
Author	山部, 徳雄
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1953
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.46, No.4 (1953. 4)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19530401-0095

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編輯後記

第一次大戰後、ドイツの復興を容易ならしめたものゝ重要な要因として、技術の優秀性をあげることができた。當時の科學の最先端である重化學工業のпатентовの多くを所有していたことは、他國との資本提携を容易にした。資本というものは、科學的水準の高い所へも流れてゆく。そして高賃金と科學的水準の向上が保證される。我が國はどうか。人的資源の低廉豊富なことが、人間の質的なもの、或いは人間性そのものゝ輕視と結びつく可能性はありはしないか。生産性の基本となるものは、どこまでも人間性である。さて、патентов制度は、技術の進歩の上に大きな効果をもたらした。しかし反面、патентовにより、つまり技術の各部門が各私企業によつて専有せられることにより、技術の全體系は、分裂せしめられることにもなる。従つて科學のより發展を望む爲には、之等патентовを有する各企業の協力を必要とするに至る。原子力を活用する爲に、國家の要請に下づいて、各技術部門の會社が一體となつて、研究したことは周知の事がある。патентовを寄つて新しい産業を起してゆく傾向も存在する。こゝに、技術の組織化と各企業の協力というところが、問題となつてくる。今日、科學水準の向上ということとは、一個人の創意工夫ということのみによつて解決されるものではない。各研究機關の整備と協力とが望まれる所以でもある。

(山部徳雄)

昭和二十八年三月二十五日印刷
昭和二十八年四月一日發行

第四十六卷 定價 七拾圓
第四號 送料 四圓

編輯兼 發行所 東京都港区芝三田慶大經濟學部内
高村象平
印刷所 圖書印刷株式會社
川口芳太郎

豫約購讀料
一年分 金八四〇圓(送料共)
半ヶ年分 金四二〇圓()
發行所 東京都港区芝三田三丁目
慶應義塾大學經濟學部研究室内
慶應義塾經濟學會